中東基礎知識

アラブ諸国におけるビジネスの基本について
（第４回）挨拶と名刺交換などのマナー

㈱湾岸経済研究所　代表取締役社長　田中　保春

挨拶と名刺交換

（こちらが男性で相手も男性の場合）

挨拶するときは相手の目を見ながら、右手だけで握手しましょう。笑顔を添えることもお忘れなく。

現地に長く駐在し、アラビア語で自然に挨拶できるようになり、親しい相手の場合はアラブ流のハグがベターです。相手もあなたに親近感が湧くでしょう。しかし、ハグの方法にはバリエーションがあり、自然体でハグができるようになるためには、最低５年の修行が必要だと筆者は思います。

こちらが女性の場合、相手男性に手を差し出すことは全く問題ありません。ただし、女性が（長いビジネス上のつきあいであっても）相手の男性にビジネスや公然の場でハグをするのは社会慣習からは外れています。もっとも、家族や親族は例外です。

もしアラビア語で挨拶したければ、「アッサラーム･アライクム」とはっきりと言いましょう。日本語の意味は 「あなた（がた）に平和がありますように」ですが、「こんにちは」など日常のあらゆる場面で使われます。省略して「サラマレーコン」と言う方もおられますが、通じないかもしれません。慣れてくれば､「アッサラーム・アライクム」の後に続く言葉も添えると、より丁寧になりますが、中上級編になりますので今回は省略します。

握手の次は名刺交換です。着席する前に立ったまま、右手で渡すのが基本です。左手が利き手の方も、右手で渡しましょう。左手は一般的に､「不浄の手」とされているからです。ただし、日本人とのビジネスに慣れた相手は両手で名刺を渡すことに慣れているので、その場合は日本の流儀でやりましょう。

着席したら相手の名刺をきちんと並べて置きます。名刺入れに直ぐにしまわずに、しっかりと目を通し、相手の氏名と役職を確認しましょう。複数の相手の場合は、会議の途中で相手の名前をうっかり思い出せない場合がありますので、手元に置いておけば相手の名前を確認することができます。

（こちらが男性で相手が女性の場合）

相手から握手を求められるまでは、こちらから握手を求めることはマナーに反します。男性とは握手をしない（嫌がる）アラブの女性は多いので、気をつけましょう。ただし、こちらが女性の場合は、右手を差し出し握手しましょう。

相手の呼び方

（相手が男性の場合）

誇り高いアラブ人は敬称や肩書きを非常に重視します。誰と会うのか、事前にしっかりと確認し、頭に入れ、挨拶の場で混乱しないようにしましょう。初対面の挨拶や第一印象はたいへん重要です。

呼び方は相手によって異なりますが、一般的には次の通りです。

筆者紹介

1955年京都市生まれ、大阪外国語大学（現、大阪大学）卒、リバプール大学MBA、ミシガン大学院Execコース修了。IHI、仏銀ソシエテ・ジェネラルのちにソシエテ・ジェネラル証券（湾岸産油国カバレッジ）を経て、サウジアラビア民間財閥のファミリーオフィス・アドバイザー、中東協力センター非常勤アドバイザー、サウジアラビア総合投資院＝SAGIA（現、投資省）リヤド本部にて総裁アドバイザー＆ジャパンデスク、みずほサウジアラビア株式会社代表取締役会長、サウジ地場企業（製造業）の社外取締役や監査委員会長、リヤドのプリンス・スルタン大学ビジネススクール理事、サウジアラビアの非営利団体の顧問などに従事、2022年に株式会社湾岸経済研究所を設立

●王族：（HRH の場合）Your Royal Highness
（HRH 以外のプリンス／プリンセスの場合）[1]　Your Highness

ただし、会話の最初はYour（Royal）Highness, Prince 名前（ムハンマドなど）と少し長くなりますが、名前まで呼ぶのが正式です。なお、国王や皇太子に対しては、例えばサウジアラビアの場合は Your Majesty the Custodian of the Two Holy Mosques King Salman bin Abdulaziz Al-Saud　や　Your Majesty Crown Prince Mohammad bin Salman bin Abdulaziz Al-Saud となります。国王や皇太子以外の王族に対しては、Your（Royal）Highness Prince Khalid のように呼ぶのが正式です。

●政府高官（大臣、総裁、長官）、大使、アドバイザー（大臣付顧問など）、副大臣／次官：Your Excellency の次に役職、その後に名前となります。一般的には、苗字は含まずに呼びます。例えば、Your Excellency Minister Abdullah といった感じです。なお、サウジ政府のアドバイザーは地位が高く、準大臣級ですので、Your Excellency を使うのが一般的です。

●ドクター（ドクトール）：アラブ諸国では博士号や PhD 等をもっている方は名刺に Doctor や PhD を記しています。MD（医学博士）、EdD（教育学博士）、JD（法務博士）の表記を使っている方もいますので、注意しましょう。博士号や PhD といった学術分野での最高レベルの学位をもっている相手には、Mr. ではなく必ず Doctor と呼ぶことが大事です。

Doctor と呼ばれるべき相手が Mr. や Engineer と呼ばれると気分を害しますので、注意しましょう。なお、アラビア語では男性の場合は「ドクトール」と呼びますので、ドクターの代わりにドクトールと呼んでも大丈夫です。ちなみに、上述の王族や高官がドクターの場合は、名前の前にドクターを加えます。

さて、アラブ諸国では正式に博士号を持っているのかはっきりしない人でもドクトールと呼ばれている年

1　「HRH 以外のプリンスやプリンセス」とは王位継承権をもたない傍系の王族のこと

配の方々がいます。その場合は、真偽にかかわらず、ドクトールと呼ぶのが一般的です。とにかく、相手の心証を害することは禁物です。「ドクトール」の安売りと言われても、それで交渉や商売がうまく行けば良いのです。「リヤド市内の大勢の年配が集まる場所で、大声でドクトールと呼べば（自分のことだと思って）みんな振り返る」という冗談があるくらい、サウジアラビアではドクトールは多いことで知られています。

それから、もう一つ・・・大勢が集まるホテルの会議場などでは、偶然顔見知りの方に遭遇したものの、相手の名前が咄嗟に出てこないことがあります。そんな時には、この「ドクトール」という敬称があなたのピンチを救ってくれます。“Happy to see you here, Doctor”とか言えば、急場は凌げます。

●エンジニア：アラブ諸国ではエンジニアのステータスは非常に高く、「この人、ほんまに工学を勉強したんかいな？」と思うような人もエンジニアと呼ばれるケースが多いのが特徴です。サウジアラビアでは公的なエンジニア協会というのが存在し、そこに登録されていないと公式にはエンジニアと認定されませんが、それでも登録されていないエンジニアの方も非常に多いのが現状です。エンジニアもドクトールと同じです。いつも「エンジニア・・・」と呼ばれている相手、例えば、Engineer Mohammad に対して Mr. と呼ぶと、相手はプライドに傷が付き、気分を害します。「Engineer・・・」あるいはアラビア語で「ムハンディス（Muhandis）・・・」と呼んであげましょう。アラビア語が覚えにくい場合は、「エンジニアは模範です」と語呂合わせで覚えると便利です。但し組織によっては Geologist や Chemist という肩書で呼ぶケースもあると思いますので、ご留意願います。

●上記の呼び方のどれにもはまらない相手は、Mr. となりますが、アラブの場合は Mr. の後には苗字ではなく名前（ファーストネーム）で呼ぶことが多いのが特徴です。

●最後に、日本企業との付き合いが多い相手には Mr. の代わりに「・・・さん」で呼ぶのも相手から好意的に思われる良いアイデアです。その場合も、「さん」の前は苗字ではなく、名前で呼んであげれば親しみ感が増します。アラブの流儀は、苗字ではなくすべて名前（ファースト・ネーム）です。

●ここからは番外編です。相手と非常に懇意になればプライベートな場面では「アブ（Abu）・・・」とアラブ式に相手を呼ぶのも親しみ感が湧きます。父親を意味する「アブ」の後には相手の長男の名前が入ります。「アブ・ファイサル」は「ファイサルのお父さん」という意味になります。ただし、ビジネスや公式の場ではお勧めできません。

ひと昔前までは、目上の人や尊敬すべき相手を「シェー（Sheikh）・ムハンマド」のようにシェーを使う人が多かったのですが、今ではシェーを使う人はほとんどいません。サウジアラビアでは Sheikh と認定されている人以外に対して使わないようにとのお達しが10年以上前に出た記憶があります。老婆心ながら、昭和世代は『おそ松くん』に出てくるイヤミの「シェー」を真似しないように・・・。

ムディール（Mudir）はアラビア語で組織や部門のトップを指す言葉で、「社長」という意味になります。この言葉もファーストネームの前に使える敬称のひとつですが、それは相手の役職を特に強調したい時が普通です。「ムディール・アブダッラ」は、日本語では「アブダッラ社長」となります。ムディールが覚えにく

い場合は、「無ディール（No deal）でも社長、これいかに？」と語呂合わせでどうぞ・・・。なお、このムディールはその後に名前を付けないでムディール単独では使えません。「ムディール、ムディール！」とか言っていると、何処かの呼び込み屋みたいになりますので、ご注意ください。

（相手が女性の場合）

●官庁トップ（大臣、総裁、長官、大使）、アドバイザー、副大臣／次官　Your Excellencyの次に役職、その後に名前となります。一般的には、苗字は含まずに呼びます。その他は男性（上述）と同じです。

●ドクター（ドクトーラ）：女性の場合は、アラビア語では「ドクトーラ」になります。

●Mrs.／Miss：男性の場合と同様に、こちらもMrs.／Missの後には名前で呼びます。

服装

（こちらが男性の場合）スーツが無難です。初対面ではネクタイをした方が良いと思いますが、その後はノーネクタイでも構いません。ただし、相手が王族や大臣級の場合はネクタイをした方が良いでしょう。スーツよりもカジュアルで良いなら、ジャケットでも良いでしょう。これも相手次第です。真夏でもオフィスはかなりエアコンが効いて寒い位ですから、ジャケット持参が望ましいでしょう。

（こちらが女性の場合）スカートよりもスラックスの方が無難です。相手が王族や大臣級なら、ジャケットは必ず着用か持参した方が良いでしょう。外国人女性の多くが近年アバーヤやスカーフを着用しなくなりましたが、それでも相手が高位の方や宗教的に敬虔な方ならアバーヤとスカーフを着用した方が無難です。事前に相手に着用の必要有無を確認した方が良いでしょう。

（画像：筆者作成）

アラビック・コーヒーが提供されたら

かならず右手だけで受け取りましょう。「サンキュー」またはアラビア語で「シュクラン」と短く言いましょう。「カフワ・アラビーヤ」と呼ばれるアラビック・コーヒーはアラブ文化において非常に重要な役割を果たすウェルカム・ドリンク、ゲストを迎える際の伝統的儀式の一部として提供されます。

出所：Arab News
https://www.arabnews.jp/article/features/article_9077/

アラビック・コーヒーは通常、甘いデーツと一緒に提供されます。遠慮せず、デーツも賞味しましょう。糖尿病などで甘いものが駄目な場合は、その理由を相手に伝えた方が良いと思います。何も言わないと、相手は良い印象をもちません。一緒に出てくる小さなお皿（フィンガーボール）に入った水は、デーツを食べた時につく指の汚れを洗い落とすための水です。デーツの種は右手で口から出し、もうひとつの小さなお皿の上に置きます。その後に水で指を洗い、ティッシュペーパーで拭きます。

アラビック・コーヒーのお代わりが欲しい時は、小さなカップを何も言わずに渡せば、給仕する人はお代わりを注ぐサインと理解します。カップを机の上に置かず、そのまま手で持っていると、お代わりが欲しいというサインになります。通常、お代わりは２回までがマナーです。筆者はいつも１回か２回はお代わりをします。相手への礼儀ですので、断るのは良くありません。お代わりがもう要らない場合には、右手でもった小さなカップを少し横に揺らすのがアラブの作法です。

「何を飲みたいですか？」の問いには

「何がありますか？」という質問をするよりも、“Can I have an American coffee and some water, please?”のように、とにかく具体的に言う必要があります。アラブ諸国では「コーヒー」と言うと、相手（給仕する人）はアラビック・コーヒーと混同する場合がありますので注意しましょう。アメリカン・コーヒーやティー（紅茶）の場合は、砂糖とミルクが必要かどうか訊いてきますので、“No sugar, no milk, please”の様に伝えましょう。最初から、“Black coffee, please”でも十分です。なお、砂糖を入れて欲しい場合は、a spoonful of sugarとかtwo spoonful of sugarが正しい英語ですが、相手が「？」となった場合には“ONE SPOON SUGAR”と言った方が通じやすいかもしれません。

＊本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。